

おいでん・さんそん とよた森林学校運営委員会発行

No.5 2023年12月号

とよた森林学校だより

地域の森・健康診断

第2回 「地域の森を考えよう」 7月22日(土)

～地域の森と暮らしの在り方をみんなでご考える～



▲自然林を体感する



▲蔵治先生の基調講演



▲人工林について学ぶ

講座はまず蔵治先生の基調講演で、日本と欧州の森をとりまく現状と事例紹介、社会動向を知るところから始まった。

連日の真夏日でもひんやり涼しい押井町内の伊熊神社に移動して、人工林は小山講師、天然林は北岡講師がその成り立ちや役割、魅力などを解説し、参加者は森を感じながら耳を傾けた。

その後、歴史ある普賢院で、鈴木辰吉さんが取り組んでいる「自給家族」、「新・入会地」Open Common の構想を聞く。

農地や山の課題を個人や地域だけで抱え込むのではなく、山村と都市の住民がつながり、それぞれ幸せになる仕組みを作ろうというものだ。

午後は各班で地域と森の未来を話し合い、たくさんの意見やアイデアが発表された。

年齢も住んでいるところも違う多様な人たちが、押井町の未来を真剣に考え、語り合う一日になった。

「水を飲まない人も、空気を吸わない人もいない。それらを生み出すのは森で、人間にはそんな工場は作れない。」損得だけではない森の公益性を、松井武夫さんが語ってくれた言葉が印象的だった。

これから押井の地域と森づくりがどうなっていくのか見守り、参加していきたいと思う。

(追記)蔵治先生の森林文化の継承についてのお話し(文化とは知恵の集積である)や参加者で話したこんな森や場所があったら…のアイデア、山村と都市のつなげ方(どんな人を、どんなコンテンツで、どうやってPRして、継続的に繋げるのか)など興味深いところがいっぱいありました。

今回の講座を受けて、森について知り、気軽に話せる場所がこれからも増えていくといいなと思いました。

(山崎/一般参加者・森林ボランティア)



▲押井町の熱い思いにふれる！



▲地域と森の未来をみんなでご考える！

多様な間伐手法を学ぼう！

- 第1回 8月 5日(土) 多様な間伐形態の紹介(御内市有林)
- 第2回 8月19日(土) 目標林型の考え方(勤八市有林)
- 第3回 8月26日(土) 将来木施業と選木(城山市有林)

森林施業は立地条件・目的によって、本来その方法は多様なものです。そこでより広い視野で個々に合わせた森づくりを目指すため、様々な森林施業の考え方や技術を学びます。

◆第1回「多様な間伐形態の紹介」

豊田市森林課 柴田さんの講義により、人工林の状態を評価するいろいろな指標を途中演習問題を交えながら、そして木を伐採する方針によって、その後の森林の状態が変わることも学びました。

午後からは列状間伐などの見学、巻枯らし間伐の実践を行い、それぞれのメリット、デメリットを共有しました。実際に見る、実践するは、やはり大事ですね。特に巻枯らし間伐の皮剥ぎは、昨年に引続き夢中になって行っていたのがやはり印象的でした。



▲巻き枯らし間伐の体験

(参加者の感想)

- 森林の目的が個人の価値観によって変わるので、間伐手法を学ぶとともに、森林について知ろうと思った。
- 自分で行った巻き枯らし間伐のその後を確認するチャンスがほしい。
- 計3回で、1人¥3,000は安い。

◆第2回「目標林型の考え方」

◆第3回「将来木施業と選木」

岐阜県立森林アカデミーの大洞先生をお招きし、第2回、第3回で、山林の将来に向けて目標林型をどうするか、その選木の仕方について学びました。

日頃、簡単な林分調査を行う中で、1本1本直径を測り、その木の特徴を観察してから、どの木を残し、どの木を伐るかを選択する実践。

皆さん時間を忘れて1本1本眺め、考え、「もっと時間が欲しい!」との声も。じっくり木を見る貴重な体験だったと思います。(恵比根)

(参加者の感想)

- 毎回違う現場で研修できていいと思いました。
- 国内のお話だけでなく、海外の事例などもまじえてお話し頂けて勉強になりました。
- 様々な森を見せて頂き、たいへん満足しています。飽きることなく楽しく学びました

蔵治先生、教えて！



蔵治先生は、森林学校の校長先生で、大学院で「森と水と人との関係」や、「地域森林自治」の分野を研究する教授です。蔵治先生の「知識のダム」から、私たちに、森のことを少しづつ、放流していただきます、お楽しみに！

その2

雨によって林道・作業道が壊れる

山地に大雨が降ると土砂崩れ(沢抜け)が起こります。矢作川流域の過去の例では2000年の東海(恵南)豪雨(上矢作、根羽、平谷が中心)、1972年の47災(藤岡、小原が中心)が知られています。

一方、大雨で林道や作業道も被害を受けますが、どのような被害を受けるのかはあまり知られていません。土砂崩れと林道・作業道は行政の担当部署が異なっており、林道・作業道の被害は住民の生活や林業に支障をきたすため、速やかに復旧工事が行われ、復旧前の被災状況が人目に触れることはまれです。

しかし「災害に強い、壊れにくい林道・作業道」を目指すために、林道や作業道にどのようなメカニズムで、どのような被害が起こるのかを知っておくことは大事なことです。

ここで紹介する事例は2020年に熊本県の球磨川流域の大雨で被災した林道の写真です。復旧工事に着手する前の現場を歩いて撮影しました。

1枚目はコンクリート路面工が宙に浮いた状態になり、崩落した事例です。沢沿いに林道があり、流水が直線的に流下するのに対して林道がそれを妨げるようにカーブしている場合、林道に対して流水が斜めから当たり、コンクリート路面工の下の路盤が流されてしまいます。

2枚目はアスファルト舗装の下の路盤の中に水みちができて、碎石が水みちに沿って流れ出てしまい、陥没



した事例です。ところどころ盛り上がっているところは流れにくい石が舗装下に残存している個所と考えられます。

沢筋に沿った林道や作業道は、大雨時にこういった被害を避けることは難しいため、沢沿いに林道を作ることは極力避けた方がよいと考えられます。

夏休み昆虫教室

昆虫の観察を通じて、自然の不思議さや面白さに気づき、
自然観察の楽しさを知ってもらうことがこの講座の目的です！

第1回 「ブナ林の昆虫観察」

2023年7月23日(日) 面の木峠



▲アカエゾゼミの脱け殻



▲ヒグラシの脱け殻



▲生きたアカエゾゼミ発見！



▲エゾハルゼミの脱け殻

夏休みが始まったのが7月21日からだったので、参加してくれた子供たちにとって、この夏、最初の楽しいイベントになってくれたら、とてもうれしく思います。

参加者は6家族14名の予定でしたが、1家族と連絡がとれず5家族11名(うち子供6名)での昆虫観察会となりました。

予定していたプログラムの順番を、午前と午後で入れ替え、水生昆虫の観察は次回にあるので、今回はなしとし、午前に**花に集まる昆虫の観察**、午後に**セミの抜け殻調査**を行いました。

花に集まる昆虫の観察では、合計27種の昆虫(クモも含む)を確認できました。

花に集まる昆虫で特に大事なものは、ハナバチとハナカミキリだというお話も北岡先生からありました。ハナバチの脚についている花粉だんごも見るのができ、そのユーモラスな姿は、花粉だんごという言葉とともに子供たちにとっても印象に残ったと思います。

道路沿いでの観察もあり、昨年の反省を活かし車の通過の際は声掛けを早めにして安全面に最大の注意を払いました。

セミの抜け殻調査では、昨年24匹だったのに対し、今年はなんと! 146匹! びっくりしました。

特にエゾハルゼミが134と大量発生していました。抜け殻のついている高さを測る測幹が2つで、子供たちが抜け殻を発見するペースに、測って記録するのが追い付かず、待たせてしまうことになってしまったことは大きな反省点です。(山田)

●参加者の感想/ セミの抜け殻が思ったよりたくさんとれました。エゾハルゼミは街中では見ることができないので、貴重な経験ができました。

第2回 「きれいな川の水生昆虫」

2023年8月6日(日) 御内市有林

前回7月23日から2週間、厳しい暑さが続く中(今年は連日熱中症警戒レベル)、第2回の開催となりました。

開催場所の御内市有林は気温26℃、水温19℃でとても過ごしやすく、参加者は5家族13名(うち子供8名)でした。

午前中は、主に水生生物についての座学で、北岡先生の手書きの絵をまじえながらの詳しく丁寧な説明に、子供たちもたいへん興味深く聞き入ってくれていたと思います。

ファール(顕微鏡)を使っての観察もあり、拡大した水生生物の姿を興味津々で覗き込む子供たちがとても印象的でした。

午後からは、川に入って大人も子供も夢中になって水生生物を探しました。

北岡先生からは、今日是非見つけて欲しい生き物として①ムカシトンボのヤゴ(幼虫)②プラナリア③ミズバチ(トビケラの幼虫に寄生する)をあげられていました。

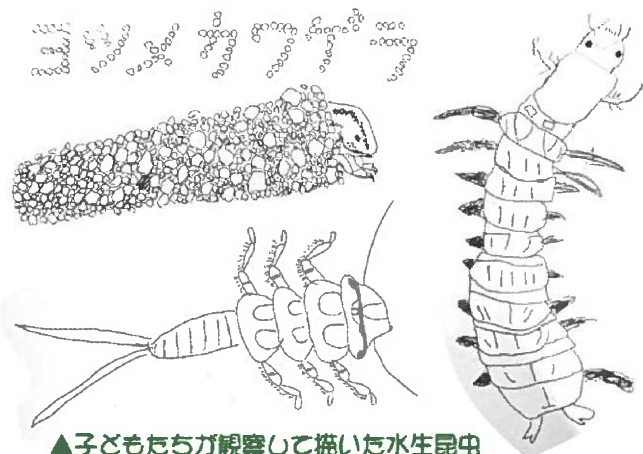
①のムカシトンボはけっこう見つかったものの②のプラナリアと③のミズバチは見つかりませんでした。水温が19℃と例年に比べて高かったのと、数日前に降った雨の影響では?とのことでした。

皆で捕まえた生き物は、先生が名前を教えて下さりながら分類し、トンボ6種、トビケラ6種、カワゲラ5種、ヘビトンボ2種、カゲロウ5種など、他のも含めて全部で33種となりました。

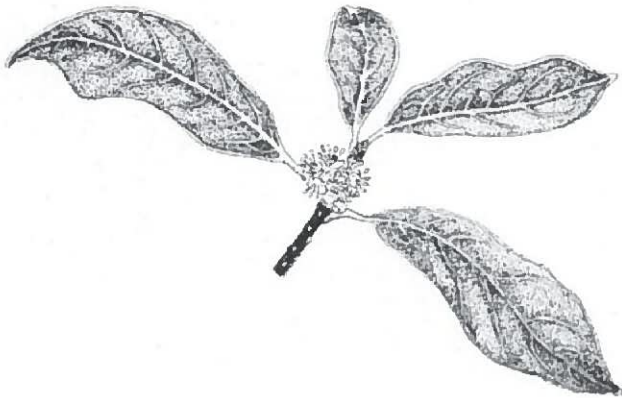
分類後、水生生物の食う食われるの関係(食物連鎖)をカードで教わったことも、とても印象に残ったと思います。

終了後に8歳の男の子が北岡先生に熱心に質問している様子にこの講座の意義みたいなものを垣間見た気がしました。(山田)

●参加者の感想/ 普段意識しない水生生物の世界を知ることが出来、大変面白かったです。子供を連れ、自宅周辺でも観察をしてみようと思います。



▲子どもたちが観察して描いた水生昆虫



夏の森ではあまり目立たないのに、冬枯れの森になると急に目につく樹木がいくつかあります。樹皮の特徴のある木は、その代表的なものです。

クスノキ科のカゴノキは、最も樹皮が目立

つ樹木のひとつです。南方系の種類で、シイカシ林に生え、時に胸高直径60センチ、樹高15メートルにもなる常緑広葉樹です。

しかし、個体数は少なく、大木を見つけると、思わず「やったー、大発見」という気分になります。

最大の特徴は、その樹皮です。本来は淡い灰黒色ですが、鱗状に樹皮がはがれ落ちた跡が白っぽくなるので、全体的には、鹿の子模様となります。その様子から、カゴノキ(鹿子の木)と名付けられました。

雌雄異株で、9月に、黄色い小さな花が穂状に咲きますが、目の前で見る機会は少なく、じっくり観察することは稀です。

葉はあまり特徴がなく、葉だけでカゴノキと分かれれば、樹木分類能力は「中の上」です!



第2回 身近な樹木調べ

●温帯性の樹木(御内市有林) 2023年8月27日(日)



▲豊田市内に自生する温帯性の樹木の葉を手に取ってじっくり観察しました!

身近な樹木調べ、第2回は御内市有林で温帯性樹木の観察。参加者は18名だった。

今回のねらいの一つ目は、シデの仲間を見分けること。サワシバ、クマシデ、アカシデの葉の特徴を調べた。残念ながら、ミズメとイヌシデは見つからなかった。

一方、クスノキ科は5種類を確認した。クロモジとウスゲクロモジが並んでいるところで、葉の特徴を調べたり、小枝を折って臭いを嗅いだ。アブラチャンとシロモジの大きな実が印象的だった。

今回のもう一つのねらいは、ブナとイヌブナの比較。山道でブナの落ち葉を拾い、波形の鋸歯を観察、葉脈の数を数えた。イヌブナは沢沿いの道にあったのだが、川の対岸ではっきり確認できなかった。

今回確認できた樹木は91種類。鹿の食害がひどく、皆さん驚かれていた。(中根)

森林学校講座の申込方法

1. 豊田市・森の総合サイトTomori にアクセス!

豊田市 トモリ 検索

2. アカウント登録 (初回のみ)

- 「楽しむ・学ぶ」ページ右上の **新規登録** をクリック
- 必要情報を入力し、**利用規約に同意して登録** をクリック
- 届いたメールのURLをクリックし、サイトで本登録をして完了!

3. 講座の申し込み

- サイト上部の「楽しむ・学ぶ」をクリックし、
- **申し込み** をするをクリック
- 必要事項を入力し、**登録する** をクリックし完了!

※こちらからも講座の申し込みができます

お問い合わせ・申し込み

- おいでん・さんそん森林学校運営委員会
担当/山本 090-5453-6411(SMS可)
- 豊田市役所 森林課 0565-62-0602



●2023年度の「とよた森林学校」の講座は全て終了しました。森林学校だより12月号に入り切らないほどの講座内容でしたので続きは、3月号に掲載します。ご期待ください!

- 今年も多くクマの害が報告されました。山奥でクマが安心して生きることができない方法はないのでしょうか? ...と、冬の間脂肪をため込み、クマ体型になりつつある我が身。そうだ、「外を歩いてこよう!」冬芽や越冬昆虫の観察もできるし、春から森林学校に行くための体力づくりにもなるしね!
- 来年度も、よろしく願います!